



Title	資料
Author(s)	深瀬, 清
Citation	季刊農業経営研究, 2, 81-81
Issue Date	1956-07-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36236
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_81.pdf



と経営の組織に関連するものであることは、現実における機械化が階層性をもっていることと深い関係をもっているとして理解される。すなわちわが国のような経済的社会的諸条件の下での農業の機械化は、それがたとえ、単一の作業面への機械の導入であつても、経営全体との関連において組織性をもつことが要求されるため、そして一つの作業の機械化によつて生じられるチェーン・リアクションの要求に対して適応する経営のみが、具体的に機械化を行いうるため、必然的に階層性をもつことになる。プリnkマンはこの階層性を「個人的事情」という名で呼び、これが静態的な経営方式の決定に大きな力をもっていることを指摘しているが、機械化というようなはげしい動態過程においてはこれが更に顕著なものとなるのである。

- 註： 1) マルクス：資本論 第1巻第2分冊 向坂訳 P.68~71
 2) 細野重雄：日本農業の機械化：農業総合研究 Vol.3 No.1 P.82
 3) 近藤康男編：農業経済研究入門：P.178 以下を参照
 4) 細野重雄：前掲稿 農業経済研究 Vol.3 No.2 P.148
 5) マルクス：資本論 第3巻第4分冊 向坂訳 P.54~55

- 6) Andrew boss, George A Pond: Modern Farm Management: P.311
 7) Robertson, Woods. Farm Business Management: P.133
 8) Colorado A. & M. College. The Economics of Sugar-Beet Mechanization. (北海道甜菜振興会訳)
 9) 上掲訳書 P.25 以下特に P.32 を参照
 10) プリnkマン：農業経営経済学：大槻訳 P.111 以下及びプリnkマン：農業経営方式の原理：永友訳をも参照
 11) 大谷省三・大内力編：農業生産力論考：佐藤二郎稿：農業生産力と機械化 P.275
 12) Pプリnkマン：農業経営経済学 大槻訳 P.91 以下及び P.197 以下 尙磯辺秀俊：農業経営 P.314 には、動力耕耘機と役畜との費用関係を具体的事例にもとづき図示してあるが、この計算方式は本稿に紹介したA・ランゲをはじめとする人々の計算方式に通ずるものがあり、教授の指摘されているような修正を計算方式そのものにおりこむ必要があるのではなかろうか。

【資料Ⅲ】

乳牛経済検定成績簿 (第3巻)

北海道農務部農業改良課 (30年3月)

昭和29年3月発行の第2巻に引き続き新たに検定を終了した540頭を本成績簿に集録し、併せて1100頭の成績を公表したものである。

本成績簿は、酪農経営の各種分野について今後いかに改善すべきかという、乳牛経済検定本来の使命の一端を果すべく、その素材を提供するものである。

北海道沿岸都市の展開と その近郊村における寄生 地主の成立

一前田村の沿革とその
発展過程一

北海道農地開拓部 (30年4月)

これは北海道における沿岸都市の展開から近郊農村発展へと指向して進む北海道開発の一過程について背景を岩内郡前田村に促えて記述した。

序論、1 沿岸都市岩内の発展 2 近郊村開拓のうごき 3 近郊村の農業 4 土地所有の推移 5 開発地主の農場経営 結論 (筆者 岡光夫)

工場工業の発展が農村 経済に及ぼす影響の研究

第1部 工場工業の発展と農業
第2部 山村開発と農家の兼業

北海道立農業研究所 (30年5月)

工場工業が農村経済に及ぼす影響を農家人口の存在形態、農業生産力及び農家経済に及ぼす影響に視点を置いて研究を進めたものである。研究対象の工場としては、A市にあるK.S. パルプ工場を取り上げ、近郊農村との関係を検討した。
(筆者 崎浦誠治 田辺良則 他)